週刊
明るい小矢部
赤旗 読者通信 改題
2022. 11. 27
通巻No.1583
日本共産党
小矢部市委員会
市内七社 245
Tel 67-4322
Fax 67-4842

鉄道高架橋下に、高さ制限の警報装置を

日本共産党が県交渉

日本共産党富山県委員会は11月16、17日、2023年度富山県予算編成に対する要望書を提出し、県の各課担当者の回答を得ました。上田由美子市議が参加しましたので、市関連項目について、県土木部の回答をお知らせします。

県交渉する上田市議(右端)と津本県議(左端)＝11月16日、県議会会議室

【要望】県道坪野小矢部線の東福町地内「あいの風とやま鉄道」のガード下で、建設機械の運搬車に、高さ制限ガードが壊される事故が今年3回あった。車両が高さ制限を超える場合、通過前に鉄道の両側で、衝突を回避するため警報を発する装置を設置すること。

この要望は市民から、次の訴えが届いたことがきっかけでした。「東福町と水牧を繋ぐ道路であいの風鉄道の高架下事故で今年に入って3度も通行止めになった。地元・水牧の方は、東福町に用事があると、綾子の橋を渡ってゆくことになる。ほんの2～3百mの所へ往くのに3km程走ることになる。何とかしてほしい。」

衝突回避の対策を協議中

【回答】5月、8月、10月と3回衝突された。1回目で強度のあるガードが破壊されたため、仮設のガードを取り付けたところ、2回目、3回目の衝突があった。3回目の後、「大型車・中型車高架下通行不可」「この先、鉄道高架下高さ制限3・5m通行注意」の看板を10か所設置し対応した。現在は仮設であるため、本来の強度のある高さ制限ガードの建設を計画している。同時に、衝突を回避するための有効な対策は現在協議中である。

【要望】国道471号線と千歩島線が交差する泉町交差点の改良（右折レーンの設置）を促進すること。

【回答】今年度12月に道路改良工事を発注し、令和5年度中に完成させる予定である。

【要望】東部小学校前の融雪用井戸を完成させること。県道から市道に移管した桜町地内道路の融雪装置に関しても、砂の排出清掃を県として行うこと。

【回答】井戸の掘り直しをしているが、今年の冬に向けて完成する予定である。砂の排出清掃について、同じポンプを使っているので市道についても清掃する。

【要望】県道砺波小矢部線の拡幅を、国の交付金を活用するなどして、いっそう強力に促進すること。とくに危険個所の多い金屋本江地内を促進すること。

【回答】県道福光・福岡線の西中交差点の拡幅工事が終わり、現在県道砺波・小矢部線で野寺交差点の拡幅工事を行っている。必要性の高いところから予算を付けていく。

【要望】県道西中・大滝線の正得地内に歩道を設置すること。

【回答】県道砺波・小矢部線の進捗状況を見ながら、次の優先順位を決めていく。

シリーズ2　どうする！ストレスの多い「学校教育」

国連　日本に4度も勧告
「過度な競争的システムから子どもの解放を」

「不登校」の原因の1位は、何でしょうか？「いじめ」(0・2%)でも「学業不振」(5・2%)でもなく、子ども自身も言葉に表現できない「不安感」（49・7%）なのです。「どうして学校へ行けないの？」と言われても、自分で表現できないような苦しさと体調不良なのです(令和3年度文科省調査・小中合計・国公私計)。

国連は、日本の教育環境について、たびたび勧告をしています。子どもの権利委員会(CRC)は、4度目となる勧告を2019年3月「総括所見」として、示しています。その抜粋です。

・子どもが社会の競争的性質によって、発達を害されることなく子ども時代を享受できることを確保するための措置をとること

・ストレスの多い学校環境(過度に競争的なシステムを含む)から子どもを解放するための措置を強化すること

（富山県教育研究所・松浦晴芳氏　論文より）

つまり、日本の教育の在り方は、子どもにとって「競争的要素」が多く、ストレスになっているという国際的な評価が出ているのです。子どもにとって、「できた」「わかった」という「学ぶ」喜びや自分自身の「成長」を実感するところではなく、友達と競争して1番になること、教師や親からそのことでよい評価を得ることが、常に要求される場になっているのです。

「総合教育ランキング」1位　フィンランド
小学生「評価」はしない　午後5時には家族団らん

OECD(経済開発協力機構)という機関が、各国の教育について毎年調査しています。目的や内容についての良し悪しは別として、総合教育ランキングで1位になる国は、フィンランドです（2020年6月時点　高校1年生対象：41か国参加　2位オーストリア　3位スウェーデン　・・・日本は14位）。

総合教育ランキング1位のフィンランドの子どもたちは、どのような教育環境にあるのかをNHKで放映していたことがあります。フィンランドでは、小学生の時は「評価」はしない、午後5時には家族が揃い一緒に夕食をとる、どの家からも歩いて行けるところに図書館がある、7割の家は夕食後読書や団らんで過ごす、子どもたちは夜8時には寝る、という生活を報道していました。若い教育相は、「一人ひとりの子どもを、自立した主権者として大事に育てていきたい」と話していました。午後5時には帰ることができる親の職場環境、子ども一人ひとりを個人として尊重する視点、うらやましい限りです。

何でもご相談を

市議会議員
上田由美子
☎68-2106
Fax 68-2146

前市議会議員
砂田喜昭

前参議院議員
たけだ良介

禁無断転載
複写配布